

19. の考え方

- 1) の結果から、このペプチドが8残基のアミノ配列から出来ている事がわかる。この配列を以下のように表し、決まった所から空欄に埋める事にする。



- 2) の結果から、このペプチドのC末端が Glu であることが分かる。



- 3) トリプシンはLysのC末端側を切断するので、このペプチドには - Glu - Lys - という2残基の配列と、 - Asp - Phe - Lys- または - Phe - Asp - Lys - からなる3残基の配列、および Ala, Glu, Met から成る3残基の配列があることが分かる。

- 4) CNBrは Met のC末端側を切断するので、このペプチドには



からなる6残基の配列と、残りのAla と Glu だけからなる2残基のペプチドがあることが分かる。

- 2) の結果と併せると、この時点で下記の配列が決まる。



- 5) キモトリプシンは芳香族アミノ酸（およびLeuとMet）のC末端側を切断するので、このペプチドが - Glu - Lys - Phe - または - Lys - Glu - Phe - のどちらかの3残基の配列をもつことが分かる。これは3) の結果から - Glu - Lys - Phe - と決定できる。残りの5残基が4) までで予測したC末端側3残基 - Met - Ala - Glu - を含んでいることから、この時点で



と決まる。真ん中の2つの四角には、 - Asp - Lys - かまたは - Lys - Asp - のどちらかが入り、3) で - Phe - Asp - Lys - の配列が見出されている事を考えると、ここには - Asp - Lys - が入るとしか考えられない。以上の結果、このペプチドの配列は下記の通りに決定される。

正 解

